

(3.VI.1996, 5.VI.1996, 15.IX.1996, 10.V.1997, 9.VIII.1997)

18. *Zanclognatha griselda* (Butler)
ツマオビアツバ (4538)
(26.VI.1996♂, 30.VI.1997♀, 16.VII.1997♀)
19. *Zanclognatha curvilinea* (Wileman & South)
ホンドコブヒゲアツバ (4541)
(7.VI.1998♂, 4.VI.1999♀)
20. *Zanclognatha fumosa* (Butler)
ウスグロアツバ (4544)
(11.VI.1996♀)
21. *Zanclognatha helva* (Butler)
キイロアツバ (4546)
(5.VI.1997, 22.VIII.1997, 22.XIII.1997, 18.V.1998♂, 25.V.1998♀, 11.VIII.1999♂)
22. *Zanclognatha violacealis* Staudinger
ウラジロアツバ (4551)
(20.VII.2000♀)
23. *Herminia innocens* Butler
シラミアツバ (4558)
(25.V.2000♂, 12.IX.2000♂)
24. *Herminia arenosa* Butler
ウスキミスジアツバ (4560)
(30.V.1996, 15.VII.1996, 19.VII.1996, 31.VIII.1996, 16.V.1997, 26.V.1997, 15.VIII.1998♀, 17.IX.1998♀, 17.VII.1999♀, 23.V.2000♀)
25. *Herminia tarsicrinalis* (Knoch)
トビスジアツバ (4562)
(1.VI.1996, 13.V.1997, 15.V.1997, 12.VII.1997, 15.VII.1997, 19.IX.1997, 3.V.1998♀, 5.V.1998♂, 7.V.1998♀)
26. *Hipoepa fractalis* (Guenee)
オオシラミアツバ (4563)
(29.IX.1996, 6.X.1996, 9.X.1996, 19.X.1996, 10.XI.1996, 31.V.1997, 16.XI.1997, 16.XI.1997)
27. *Stenhypena nigripuncta* (Wileman)
ムモンキイロアツバ (4564)
(3.V.1997♀, 26.VIII.1997♂)
28. *Sinarella punctalis* (Herz)
ネグロアツバ (4567)
(25.V.1998♂, 28.VII.1998♂, 12.VII.2000♂)

<参考文献>

- 1) 高島昭(1998) ヤマトアツバを兵庫県で採集, 誘蛾燈(151), p.1.
(KINOSHITA SHUICHI 池田市伏尾台5-1-5-901)

庭の昆虫雑文(2)

森口 紀

西表島のメスアカムラサキを産卵させ、家の中で飼育、羽化した蝶を庭のゲージ(きべりはむし第26巻第1号で紹介)に放したところ、まもなく交尾し、数日後ゲージ内に並べている鉢植えのスベリヒユに蝶が産卵しているのが確認された。

若齢幼虫をそのままにして観察していたところ、隣のオオバコに鉢植えに幼虫が数匹移動していた。その後、オオバコに食痕が確認され、幼虫がオオバコを食している可能性が生じてきた。そのことを確認するため、幼虫が移動しているオオバコの鉢植えをゴースで覆い、家に持ち込んで観察を続けた。

それらの幼虫は順調に生長し、スベリヒユで飼育した場合と同じか、それよりもやや大きいぐらいの終齢幼虫へと順調に成長した。

不勉強な私は、メスアカムラサキがオオバコを食することを知らなかったので大変興味深く観察していたが、同じ職場の近藤伸一さんのお宅におじゃましたとき、図書にオオバコも食することが載っていることを教えられ納得したものである。

ゲージ内に放蝶し不思議に思っていたことがある。それは、1日、2日と経つうちに蝶の数が激減してしまうことで、長らくその原因がわからなかったが、羽だけが落ちていることもあり、まったく跡形もなく姿を消していることもあった。その犯人がトカゲなのかヤモリなのか、その他の天敵なのか長らく不思議に思っていた。しかし、最近その原因の一部が明らかになった。注意深く観察していると、ある日、カマキリが蝶を捕獲しているのが観察され、同日1cmに満たない白い蜘蛛が蝶を捕らえているのを見つけた。羽を広げたまま動かない蝶の様子がおかしいので手にとってみると、小さな蜘蛛が蝶にしがみついていた。その蝶をルーペで詳しく観察したが目立った外傷はなく、それにもかかわらずじっとして動かない蝶の姿はむしろ不思議でさえあった。多分、蜘蛛の麻酔で仮死状態にされていたのではないかと思うが、蜘蛛の生態についても、もっと調べてみたいと結論は出せない。そのほか考えられる原因としては、照明に集まるヤモリ、蜂等が考えられるが今後観察を続けたい。

(MORIGUCHI TADASHI

神戸市西区伊川谷町有瀬77-1)